

平成27年度学校評価結果及び学校関係者評価結果

ア 自己評価結果

本年度の重点目標		生徒が自ら進んで専門分野（各教科・科目）に精通するとともに、良識ある社会人としてのモラルを実践できる総合力を育成する。	
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
教務	専門分野に精通する学びに向けた基礎基本の定着を図る。また、校務支援システムの活用を継続して進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、教科会と連携し個々の生徒の学習状況・生活状況を把握する。 ・分掌、学年会と連携し指導要録作成、点検の効率的な計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年と連携を図り情報の共有に努め、生徒への対応及び指導が円滑にできた。 ・教育情報部と連携し、指導要録の作成に向け、計画を進めることができた。今後も、「様式2」の完成に関し、関係分掌・学年と協力して実施したい。
総務	生徒が充実した学校生活を送ることができる環境を整える。	P T A 活動を中心に家庭と学校の協働をより充実したものにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒用机・椅子の交換希望に対応し、校舎貸与の節目も利用しつつ、学習環境の維持に努めた。新品の補充整備が今後の課題である。 ・P T A 活動では研修会、懇談会等への積極的な参加があり、学校と保護者、また保護者同士の情報共有がうまくできた。
生徒指導	「礼節を重んぜよ」をキーワードに良識ある社会人としてのモラルを実践できる総合力を育成する。	日々の遅刻指導、身だしなみ指導を通して、礼儀をわきまえ節度ある行動がとれるようにする。	「礼節を重んぜよ」の具体的な指導の中で、特に挨拶や身だしなみについては、更衣期間の5月と9月に「生活指導強調週間」を設定し、登校時の校門指導で行った。期間中だけではなく、その後の継続指導も大切にしたい。
進路	進路指導に対する共通認識を確立し、組織的で継続性のある進路指導を展開し、生徒の進路実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生も進路情報交換会を持ち、生徒の学力・進路希望を把握し適切な進路指導を行う。 ・3年生進路情報交換会では蓄積された実力調査データを基に各生徒の状況を分析し充実した進路指導を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月下旬に、1、2年生の進路情報交換会を開催し、学年で共通認識を持ち、進路指導を展開することができた。 ・3年生では、11月下旬と国公立二次試験出願前に進路情報交換会を開催し、適切な進路指導をすることができた。
保健	生徒たち自らの手で美しい、安全な学校を作る行為（明和愛）から仲間意識を持たせ情操を養うとともに、社会を良くしていこうとする心を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練等の計画に生徒を参画させ、意識の向上を図る。 ・自主的清掃・点検活動を通し、責任感を養う。 	安全委員と保健委員を分けたことにより、生徒の活動がより細分化し、各生徒の役割が明確化し責任感を引き出した。今後、更に役割を具現化し、集団の一員としての自覚と責任感を養い、生徒相互及び教師と生徒との望ましい人間関係を形成していきたい。
生徒会	自主自立の精神に基づき、全校生徒が主体的に活動できるような企画、運営を行なう。	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度反省を生かした企画案の作成をする。 また、生徒議会、部活動連絡会、執行委員会を活用する。 ・東北被災地関係の企画の実施、安積高校との交流を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の反省を生かし、明和祭の事前準備等を計画的に実施した。過去最高の来場者数（6117人）であったが混乱はなく、スムーズに運営できた。 ・東北被災地に関するここ数年の生徒会活動について「明和54」に掲載した。
図書	生徒および教員の図書館利用を活性化させる。	新刊書紹介の強化、生徒図書部を活用した「図書館報」の新紙面作りを図る。	今年度の貸出冊数は1768冊(12月まで)は、例年に較べ少なかった。特に夏期休暇前が少なかったため、各教科と連絡を密にし、夏休みの宿題としての本の利用を活性化させたい。
教育情報	校務処理の合理化を進めるとともに、情報発信力も高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムによる指導要録、調査書作成の円滑化、成績処理の研究を進める。 ・ホームページを魅力あるものにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムは、3学年をとおした運用を順調に進めることができた。成績処理への利用はこれまでの本校成績処理からの円滑な移行等が課題である。 ・ホームページは見やすく魅力的なものに全面改定し、SSH事業や部活動など生徒の活動の情報発信も活発に行うことができるようになった。
教育相談	相談活動の広報を通して、生徒の自立への手助けを図る。	担任をはじめとして、多くの教員の観察を通して、学年会、保健室を中心に情報を共有して、心身の健康を見守る。	各学年特有の課題を持つ生徒に学年会、保健室を中心に多くの教員と連携して支援をすることができた。来年度は連携を強化して精度を高めたい。
SSH	SSH研究事業5年間のまとめとして開催する研究発表会・記念講演を成功させる。	名古屋大学豊田講堂で研究発表会と記念講演を同日開催する。例年の内容に加え5年間のまとめとなる企画をする。	研究発表会は口頭発表の他、新たにポスター発表を加え、課題研究の成果をはじめとする多くの発表を行うことができ非常に盛況であった。5年間の集大成にふさわしい研究発表会・記念講演となった。
音楽	基本的な生活習慣を大切に、個々の専門性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい音楽は美しい環境から生まれることを自覚させ、環境整備に努める。 ・各専攻について目標を決めて挑戦させ達成感を実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃区域を細分化して各自の仕事が明確になるようにした。人数的に無理がある区域が生じたのが今年度の課題である。 ・コンクールや校外に臨む際には単にミスのない演奏を目指すだけではなく目標や課題を持って取り組

			ませるようにしたい。また、良いコンディションで本番に臨むために必要なことを自覚させたい。
1年	基本的な生活習慣を整え、将来の進路を見据えた基礎的な学力と自立して行動できる人間性を養う。	学習活動、特別活動、課外活動に積極的に取り組みませつつ効率的な時間配分や取組の姿勢等のバランスを考えた活動を促すことで学校生活の充実を図る。	全体としては、落ち着いた姿勢で送らせることができた。家庭学習を中心とした取り組みをバランス良くこなせるようにし、今後も高い進路目標につなげていくことが課題である
2年	学校の中核をなす学年として何事にも積極的に取り組む。	学習、進路、修学旅行、学校祭、部活動等の学校生活において生徒が積極的に取り組めるよう指導・助言する。	学校生活を中心に、積極的に取り組み、中核を成す学年意識のもと、自主自立の精神が生まれつつある。今後、学習・進路面への一層の波及を期待したい。また、悩みを抱えた生徒については、個々の状況に応じた支援を継続的にやりたい。
3年	生徒の進路実現を図るとともに良識ある社会人を育成する。	生徒の進路希望・学習状況の情報を学年会で共有し、本校の生徒の特性を十分考慮した適切な進路指導と学習指導を行う。周囲に配慮しモラルある行動が実践できるよう指導する。	進路希望調査や担任面談を通じての生徒の情報を学年会で共有し、担任間の意思疎通ができるよう進路指導部の協力を得ながら実践した。授業を大切にすると共に、モラルある行動がとれるよう指導した。
いじめ防止等	いじめの未然防止、早期発見を図る。	生徒の様々な発信を把握するため、生活実態調査、個人面談、健康観察等を活用する。	保健室を中心にした面談による把握はうまく機能した。生徒の発信を的確に把握するため今年度は生活実態調査の質問文を工夫したが、より正確に把握するためアンケート実施を検討する。
総合評価		分掌・学年で具体的な工夫・改善策を実施し、授業、学校行事等特別活動、SSH事業など学校全体で重点目標の達成に取り組んだ。幅広い教科・科目の学習や、学校行事など生徒の自主的な取り組みをとおして、重点目標に掲げた総合力の育成で成果があった。	

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野に精通する人材を育てることができたか。 ・良識ある社会人としてのモラルを身に付け、実践できる総合力を育成することができたか。
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・呼名に対して「はい」と返事をする生徒が増えている。これは大切なことであり、企業では「はい」と返事をしないようなトップだと成長はない。 ・職員の生徒に対する思いの深さに敬服する。生徒たちの表情に不安が少ないのは、職員が学校の環境を整えているからだと思う。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・自主自立の精神を大切にしてほしい。SSHが効果があつて、自主自立を育てている。継続できると良い。 ・進学指導ではなく進路指導という観点を大事にして生徒に臨んでほしい。
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	<ul style="list-style-type: none"> ・東大が一番ではなく、進路先は本人が一番良いと思う学校に進んでほしい。子供はどこで才能が開花するかわからない。 ・生徒たちには、明和で過ごして得たものをもって生きていってほしい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<p>構成・・・学校評議員4名及びPTA会長・副会長 評価時期・・・3月1日</p>